

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 25-1-053
補助事業名 平成25年度 国際交流の推進活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人ジョイセフ

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

資源循環型社会に向けて自転車リサイクルを推進するとともに、発展途上国の妊産婦に保健サービスを提供し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

1. 再生自転車海外譲与

(<http://www.joicfp.or.jp/jp/activity/how/commodities/recyclebicycle/>)

日本の駅前に放置されている自転車が各自治体により撤去され、その中の引き取り手のない自転車を、ジョイセフが連携しているムコーバ（12の地方自治体とジョイセフで構成する再生自転車海外譲与自治体連絡会）に加盟している各自治体が整備し、安全稼働確認された「再生自転車」として途上国に寄贈する。

途上国では1日に約800人の女性が、妊娠や出産が原因で命を落としている。その原因のひとつとして、村人の自分たちの健康に関する知識や意識の不足、保健医療施設へのアクセスの問題があげられる。



村の女性たちに母子保健に関する知識や情報を伝達する保健ボランティア(カンボジア)

途上国の農村地域では、母子保健に関する知識の提供や意識を向上させるために、村人から選ばれた「コミュニティ・ヘルスワーカー(保健ボランティア)」が各村々を巡回し啓発活動を行っている。日本から贈られた再生自転車は、保健ボランティアが遠距離まで移動し、啓発活動を効率よく行うことができるようにするための重要な役割を担っている。

保健ボランティアの啓発活動を通じて、保健施設を利用する村人が増え、また妊産婦を自転車に乗せて診療所に搬送するケースもあることから、現地では再生自転車は「命を救う足」や「二輪救急車」と呼ばれている。



村人の家庭訪問活動で産後の家族計画の知識を伝えるのも保健ボランティアの大事な活動（ザンビア）

平成25年度は、途上国のニーズと要望に応えるために、リベリア、アフガニスタン、ザンビア、カンボジア、ガーナの5カ国6団体に2250台の分解自転車を寄贈した。

2. 現地モニタリング・講師派遣

母子保健推進員（保健ボランティア）の再研修・研修（ザンビア共和国）

(<http://www.joicfp.or.jp/jp/2013/10/30/20695/>)

保健ボランティアは村人の女性たちのために無報酬で保健に関する情報や知識を伝達する重要な役割を担っている。彼らの持続的な活動を支え、士気を高めるために、活動をサポート再生自転車の供与だけではなく、定期的に再研修の機会を提供することはとても重要である。日本から派遣した専門家による研修では、妊娠・出産に関する意識や行動を変えていくためのコミュニケーション教育に関する研修を実施した。また、再研修の開催時期に合わせ、現地のモニタリング活動も同時に実施し、現地で再生自転車を利用している母子保健推進員（保健ボランティア）の活動を調査視察した。研修では、視覚的にわかりやすく、体験できるツール（マギーエプロンや妊娠シミュレーターなどのリプロダクティブ・ヘルス教材）を用い、研修参加者とのディスカッションを活発化させ、保健ボランティアが日常村で実施する啓発教育活



再研修に参加した保健ボランティアたち



マギーエプロン教材を活用し、産前ケアについて討議する研修員

動の内容を強化した。その後、効果的なこの研修方法や内容を参考に、ザンビア家族計画協会の専門家により、母子保健推進員（SMAG）の再研修活動を実施した。再研修は全部で5回にわたり、新人のボランティア養成研修も含め、全部で160名の研修を行った。

日頃、村人に対する啓発教育活動の中で、保健ボランティアが抱えている課題などは、こうした再研修の機会を通じて、新たな知識と情報の習得により解決することができた。



紙芝居手法を用いた研修（他国の経験を伝達）

＜研修参加者からの感想＞

◆ ブラウン・ムンバ(24 歳)

「今回のトレーニングを通じて、自分のスキルが改善され、多くの学びがあった。コミュニティの人たち、特に若者は性や妊娠・出産についての情報が限られている。性的にアクティブでピアプレッシャー（仲間からのプレッシャー）を感じている若者たちに、マギーエプロンなどの教材も活用しながら、もっと性のことについて伝えていきたい」。



寸劇の手法を用いた、村人への啓発活動を実施する母子保健推進員（テーマ: 男性の理解と家族計画について）

◆ エビィ・シンヨコサ(33 歳)

「自分の最初の妊娠時に合併症となり大変な妊娠だった。これまで自宅での出産が多かったけど、今はマタニティハウス（出産待機ハウス）ができ、多くの妊婦さんが施設で出産するようになってきた。今後も妊娠・出産でつらい思いをする妊婦さんを減らせるように、今回学んだマギーエプロンを使って、コミュニティの人たちにわかりやすく伝えていきたい」。

◆ デリック・シクウェヤ（37 歳）

「妊娠シミュレータを使って多くの男性に妊産婦ケアの重要性を伝え、男性参加を促していきたい」。

◆ エドクシア・ムウエマ（44 歳）

「安全な妊娠や出産に関わる知識について多くの学びがあり、コミュニティでの活動にとっても役立ちました。今まで、村人の質問にはっきり答えられなかった内容も理解でき、自信ができました。」

3. 保健施設の出産環境整備および活動モニタリング・監督調整

(http://www.joicfp.or.jp/sp/JPP/zambia/ZambiaJPP2013_Annual_Report_JP.pdf)

今まで村の女性たちは、保健施設までの距離が遠かったり、また保健施設で出産するために個人が用意しなければならない消毒液やゴム手袋などを購入する資金がないために、やむを得ず不衛生な自宅でお産している。出血などの応急処置を要する場合は、自宅での対応ができないため、結果的に命を落としてしまうケースが多かった。

本事業の助成金により、本来保健施設で用意しなければならない、出産に最低限必要な備品キット（消毒液、ゴム手袋、産後用ナプキン、コットンなど）1000セットを購入し、フィワレ保健センターおよびムコルウェ診療所に配置しました。村の女性たちは保健施設で出産介助を受けるための経費的な負担が軽くなり、保健センターでの出産ケースが増え、出産時の死亡数はゼロを達成している。



出産に最低限必要な備品キット（消毒液、ゴム手袋、産後用ナプキン、コットンなど）

また、月に一回実施しているモニタリングは、現地の協力団体であるザンビア家族計画協会の専門家がプロジェクト地区へ出向き、プロジェクト関係者（助産師や看護師などの保健医療従事者、コミュニティリーダー、母子保健推進員メンバーなど）と活動の進捗状況の把握、保健統計データ管理の確認、プロジェクトで抱えている課題と対策、活動計画等についての討議・調整などを行いました。

2 予想される事業実施効果

日本から整備された再生自転車を途上国に寄贈する最終目的は、途上国の農村地域に住む女性たちの命を守るところにある。村の女性たちの命を守るために、日々各村々を巡回し、女性たちが必要とする妊産婦保健や家族計画に関わる情報や知識を伝達するのが、村人の中から選ばれた保健ボランティアである。その保健ボランティアの活動が効率よく実施できるように支えているのが再生自転車である。

本助成事業は、途上国の村の女性たちに対する啓発活動の成果を図るために、最も基本となる保健ボランティアの育成と再研修の支援であり、また、育成された保健ボランティアの活動をサポートする支援でもある。保健ボランティアの啓発活動がまず

まず活性化することにより、女性たちの健康に関する知識や意識が向上し、行動の変容も大いに期待される。ザンビアの事例では、今まで主に自宅で出産していた女性たちが、保健ボランティアの啓発活動を通じて、クリニックの近隣にあるマタニティハウス（出産待機ハウス）を利用する女性が増え、結果として、妊産婦の死亡が大きく低減した。

3 本事業に係る成果物

無し

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人ジョイセフ（コウエキザイダンハウジン ジョイセフ）

住 所： 〒162-0843

東京都新宿区市谷田町1-10

代 表 者： 代表理事 山口澄江（ヤマグチ スミエ）

担 当 部 署： 支援事業グループ（シエンジギョウグループ）

担 当 者 名： プログラム・マネジャー 簡野芳樹（カンノ ヨシタツ）

電 話 番 号： 03-3268-5877

F A X： 03-3235-9774

E - m a i l： resource@joicfp.or.jp

U R L： <http://www.joicfp.or.jp>